
第3回 神奈川県建築士会活動交流会

建築士と手をつなごう

第 1 部 宮本忠長氏講演会 感染するまちづくり

第 2 部 神奈川県建築士会における活動報告会

日時 平成 18 年 1 月 28 日 (土)

会場 神奈川大学 「レスホール」

主催 社団法人 神奈川県建築士会
女性委員会 青年委員会

第3回 神奈川県建築士会活動交流会～建築士と手をつなごう～

日時 平成18年1月28日(土)

場所 神奈川大学「セレストホール」

主催 (社)神奈川県建築士会 女性委員会・青年委員会

★ 開 場 午後12時30分

★ 開 会 午後1時 【司会 浅見 美穂／西村 綾子】
開会の挨拶 青年委員長 永井 香織

★ 一 部

講 演 午後1時10分～2時40分

「感染するまちづくり」 ～まち・歴史・景観～

講 師 (社)日本建築士会連合会会長 宮本 忠長 氏

★ 二 部

活動報告会 午後2時50分～4時45分

☆ 選出方法の説明 司会者

☆ 報告 午後2時55分～4時00分

テーマ	所属	発表者
-----	----	-----

- | | | |
|------------------------------------|------------|-------|
| 1. 「子どもと地域・学校で」
～今、建築士としてできること～ | 子どもの生活環境部会 | 氷室 敦子 |
| 2. 「ナナメ塾」 | 中支部 | 南野 英行 |
| 3. 「環境と建築」 | 建築環境部会 | 角 栄子 |
| 4. 「旧モーガン邸から始める景観まちづくり」 | 湘南支部 | 佐藤 里紗 |
| 5. 「スクランブルな報告」 | スクランブル調査隊 | 森山 恒夫 |
| 6. 「バリアフリーのすまい・まちづくりを目指して」 | 福祉部会 | 下村 旭 |

☆ 投票／休憩 午後4時00分～4時20分

☆ 審査結果発表 午後4時20分～ 司会者

☆ 講評 審査委員長 村島 正章

講評 宮本 忠長 氏

★ 閉会挨拶 午後4時45分 女性委員長 雨森 隆子

講演

「感染するまちづくり」～まち・歴史・景観～

講師 宮本忠長氏

□経歴

- 1927 長野県須坂市生まれ
- 1951 早大教授・建築家 佐藤武夫設計事務所入所
- 1964 郷里の家業を継ぐ
(株)宮本忠長建築設計事務所と改組、代表取締役所長就任
- 2002～現在 (社)日本建築士会連合会 会長

□主な作品

- 松本市美術館 (日本芸術院賞、BCS 賞受賞)
- 松本清張記念館 (BCS 賞受賞)
- 森鷗外記念館 (公共建築百選)
- 長野市立博物館 (日本建築学会賞受賞)
- 小布施町町並修景計画 (吉田五十八賞、毎日芸術賞、信毎賞受賞)
- その他美術館、博物館、記念館、庁舎、施設等多数

□伝統・風土と修景の理念

私の設計思想は、日本の伝統的な和風様式の持つ建築空間をその地域の風土に照らしながら、如何に美しい「和」の心象風景を創造するかという点にあります。その風土の歴史、土地の持つ遺伝子(素材、素形)等から検索し、それらをもとに鉄、コンクリート、ガラスの創る現代文明の光のなかで如何に諸機能を満たすかに配慮し、ソト(環境や風景)に対しては、みんなのための思いやりある空間、ウチ(内部機能やインテリア)についてはジブンのために満たされた快適空間を、という修景の理念を心がけています。そして、新しい日本の風景の薫る建築の創造に生涯を捧げたいと考えております。

(<http://www.avis.ne.jp/~miyamoto/> より抜粋)

子どもの生活環境部会

子どもの生活環境部会は、子どもにとっての環境を考えることからスタートしアンケートや調査などを行ってきました。H15年度からはこれまでの活動を生かし、建築士として社会ともっと積極的にかかわっていきこうと、手探りでワークショップを始めました。この2年半の間に11のワークショップを行い、今年度中にあと3つの小学校で予定されています。

こうしたワークショップに興味を持つ子どもは多く、リピーターもいて受付開始15分で定員になるものもあります。

活動の場は市民館・学校・また地域活動との連携などさまざまです。



ワークショップの意味

- 子どもたちがこれからの良き住まい手・まちの作り手となるよう、まちや建物に関心を持ってもらう
- 学校における住教育・総合学習・環境教育を専門家の立場でサポートする
- 地域活動・地域との連携の手助けをする
- 建築士の仕事を知り建築士会のことを身近に感じてもらう
- こどもへのアンケート・ワークシート・つぶやきなどを今後の研究や設計に生かす

ワークショップを实践する上で大切なこと

- 工作教室ではなく子どもたちが「住まい」「まち」「家族」「居場所」を考えるきっかけづくりの場
- 体験する・考える・学ぶ・知る・作る さまざまな方法
- 年齢・時間・場所に応じたプログラム作り
- 実践だけでなく毎回まとめを行い 毎年報告書を作成
- 個人情報・著作権への配慮

運営上の工夫

- できる人ができることをできる範囲でを原則に自発的に活動する。当日のみの参加者も募る
- メーリングリストやホームページ・リーフレットの積極的な活用
- 他県との情報交換・外部との連携・協力
- 大学・学生ボランティアの協力 ボランティア学生向け事前会議の開催

今までに行ったワークショップ

年 月	ワークショップ名		公共	地域	学校
15 8	第1回「つくってみよう！夢の家」	川崎市宮前市民館市民自主企画	○		
16 8	「こんなおへやにすみたいな」～つくってみよう ぼくたち・わたしたちのへや～	藤沢市青少年協会かもめ児童クラブ		○	
8	第2回「つくってみよう！夢の家」 ～建築家になろう～	川崎市宮前市民館市民自主企画	○		
10	「みんなでくらす夢の家」	藤沢市立新林小学校5年総合学習			○
10	「家の模型づくりワークショップ」	川崎市青少年創作センター(4回講座)	○		
17 3	「快適なすまいとは？」	横浜市立南小学校5年家庭科			○
3	「自分の夢の部屋を作ろう」	川崎市立宮前平小学校5年家庭科			○
8	「世界にひとつだけのおへやを作ろう」	藤沢市青少年協会かもめ児童クラブ		○	
8	「夏休みあそびランド」ミニハウス工作	川崎市宮前市民館夏休み企画	○		
8	旧モーガン邸親子ペーパークラフト教室	旧モーガン邸を守る会		○	
8	第3回「つくってみよう！夢の家」 ～ダンボールで家を作ってよう～	川崎市宮前市民館市民自主企画	○		
18 1	「新聞紙で何作ろう」	茅ヶ崎市立西浜小学校2年			○
予 2	快適な住まいと「照明」	横浜市立南小学校5年家庭科			○
予 3	すまいについての授業	川崎市立宮前平小学校6年家庭科			○

報告・論文

H16年5月 全建女全体会で発表・ H17年2月ワークショップ報告会開催

H17年5月 青年委員会関東ブロック大会 1等賞

H17年9月 「住まい・まち学習」実践報告・論文集6 住宅総合研究財団 に報告書を掲載

学生ボランティア参加校

日本女子大学 文化女子大学 駒沢女子大学 神奈川大学 東海大学 駒沢大学
早稲田大学 東海大学 多摩美術大学 東京学芸大学 田園調布学園大学
清泉女学院高校 柏陽高校

詳しくは

<http://www.kanagawa-kentikusikai.com/iinkai/gijutsu/kodomo>

お問い合わせ kodomo@kanagawa-kentikusikai.com



ナナメ塾

2005 年活動報告

- 「知欲」「食欲」「娯楽」を求め、「出入自由」「自求自足」「規則無用」をモットーに中支部をベースに活動している「ナナメ塾」。ここで昨年 2005 年の活動について概要をご報告します。

- ★ 2 月：「浜松歴史建築との出会い」→*知欲+食欲+娯楽
前年の豊岡村に引き続き浜松への日帰り研修旅行。静岡県建築士会・浜松支部主催の建築展見学とセミナーに参加。浜松市街地の歴史建築見学と浜松支部有志との交流会まで織り込み充実した一日を過ごす事が出来ました♪
- ★ 4 月：「わいわいがやがやナナメ塾」
2005 年度の活動相談会。新たなメンバーも加わり良いスタートを切りました。
- ★ 5 月：「YOKOHAMA 建築散歩・三塔編」→*知欲+運動不足解消（?笑）
YOKOHAMA 建築散歩実践編の 2 回目。冷たい春雨のそぼ降る中、今回は「横浜三塔」と呼ばれる「開港記念館」「神奈川県庁」「横浜税関」と赤レンガ倉庫を見学しました。横浜支部の皆さんも加わって頂き 15 名での開催となりました。
- ★ 7 月：「久保田一竹美術館と忍野八海散策」→*娯楽+食欲
支部予算削減を受けての窮余の策（苦笑）。厚生委員会主催バスハイクに協賛するかたちで開催しました。富士の裾野で心地よい空気と建築に触れた一日でした。
- ★ 8 月：「モーガン邸見学とペーパークラフト」→市民活動参加
藤沢市や市民団体が保存活動している大正～昭和の建築家：J・H・モーガン邸の見学（かなりハードな草刈協力を含む）とペーパークラフトに参加しました。湘南支部と子どもの生活環境部会の皆さんにお世話になりました。
- ★ 10 月：「クライミングウォール体験と BBQ」→*娯楽（運動不足解消）+食欲
最高気温 30 度を越えた日曜日に秦野市の県立戸川公園にある山岳スポーツセンター専用施設でクライミングウォールに挑戦！（インストラクターはナナメ塾メンバー）お昼には会員家族の方も加わって 23 名もの皆さんで BBQ を開催しました。川崎・横浜支部からもご参加いただきありがとうございます御座居ました～♪
- ★ 11 月：「宮川重信氏とあるく大磯・平塚（旧東海道）」→*知欲+運動不足解消
「新・東海道五十三次」の著者である宮川重信氏を講師にお迎えし、大磯～平塚へと旧東海道の歴史散歩を企画しました。ゆったり時間を確保したお陰でとても詳しく興味深いお話を伺いながら約 4Km をのんびり歩くことが出来ました。平塚到着後、20 名を超える皆さんで懇親会も開催しました。この企画にも川崎・横浜・横須賀・湘南支部から多数ご参加いただきありがとうございます御座居ました～♪

◆ 貴方も今年こそ「ナナメ塾」に参加してみませんか？心よりお待ちしております。

ナナメ塾

活動の一端を写真で御紹介します！



「YOKOHAMA建築散歩・三塔編」

前年好評だった企画の続編。
今回は横浜三塔と呼ばれる
開港記念会館・神奈川県庁・
横浜税関と赤いガ*倉庫見学。



「クライミングウォール体験と BBQ」 初クライミングウォール！ & BBQ ♪♪



「宮川重信氏と歩く 大磯・平塚旧東海道」

旧東海道をゆっくり歩く歴史散歩。宮川先生の歴史・文学・民俗学に及ぶ幅広い知識に驚きながら興味深く説明を聞き歩くことができました。温故知新？



「浜松歴史建築との出会い」

浜松と言えば鰻！ナナメ塾は欲張りですから（笑）鰻も満喫、史跡から近代建築まで見学して知欲を満たし、建築士会浜松支部の有志とも交流しました。2006年2月には浜松支部の皆さんの鎌倉研修旅行に於いて旧交を温める予定です。

ナナメ塾は会員皆さんの横と縦を有機的に繋ぐ存在でありたいと願っています。

建築環境部会

建築と環境を守ることは、相反する行為と考えられてきました。建築物を簡単に解体し新たに建築する、このようなことの繰り返りで建築は環境に大きな負荷を与えて来ました。私たちは自然環境に与える影響の少ない建築、また、人間自身も健康に暮らせる建築は何か？これらを念頭に、建築環境部会では学習・研究活動を行っております。

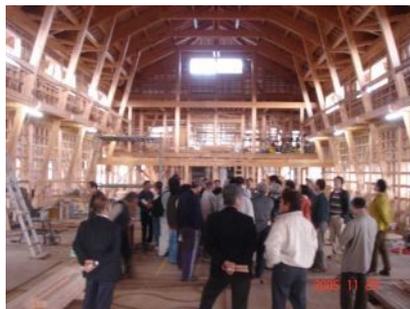
今年度は、平成 17 年 8 月 31 日には「あらためて考える・住環境における照明のキーポイント」という講習会を基礎編・実践編と 2 部構成で行い、基礎編では光を感知するシステムや光源の種類使い方などを詳しく講習していただき、今後の仕事にも生かせる講習会でした。また、平成17年9月10日に平成16年年に引き続き、山辺豊彦氏による「木構造の基本と伝統構法」と題した講習会を行い、**伝統構法だけでなく高温乾燥材の材料強度の問題点や、基礎構造、地盤データの見方等を織り交ぜ、木構造の基本的な理解を深めることができました。**

平成 17 年 9 月 27 日に「住宅の新エネルギーシステム」家庭用燃料電池を設置した東京ガスの実験住宅を中心に、併せて燃料電池自動車、SI住宅の見学会を行い、新しいエネルギーの息吹を感じました。

平成 17 年 10 月 28 日には「バウビオロジーから見た住宅のあり方と建材の選び方」という講習会を行い、バウビオロジーという概念に触れる機会を得ました。

また、平成 17 年 11 月 29 日の県産材の見学会では、新月伐採の現場を見学し、ヒノキが実際に切り出される現場を見てすごい迫力とその技術にビックリいたしました。

また、県産材で造っている寺院に圧倒され、楽しく見学・研修が出来ました。



今後の予定:平成 18 年 2 月 19 日(日)に研修・見学会「杉集成パネルの家」を行ないます。

詳しくは、雑誌建築士 1 月号の掲示板をご覧ください。

とりあげて欲しいテーマなどご要望がございましたら、下記までメールでご連絡ください。

e-mail: kankyoku@kanagawa-kentikusikai.com

湘南支部

湘南支部紹介

神奈川県建築士会湘南支部は昭和49年に設立され、鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町に在住または在勤する建築士会会員により構成されています。2005年4月現在、会員数は357名、他に賛助会員1社です。

湘南支部では平成17年度より新支部長のもと役員にも新人を増やし、活動を進めています。つり大会、地引網大会、鎌倉古建築見学会等、湘南ならではの恒例行事は支部内だけでなく他支部からの参加者も多く、いつも賑わっています。

親睦行事ばかりではなく、法令の改正等がある時には説明会や講習会を催すなど建築士として研鑽し続けています。会員へのアンケート調査も活用し、要望の多かった「専攻建築士制度とCPD登録制度」の説明会も今年1月に行っています。

他に支部の取り組みとして「湘南の歴史的景観を考える」をテーマとしてツアーを企画しています。

また、湘南支部では地域貢献活動にも力を入れており、「旧モーガン邸を守る会」など歴史的景観を守る市民活動を応援しています。積極的に地域貢献活動をしている会員も多く、新年交流会や支部総会で活動紹介を行っています。



6月18日地引網大会



10月8日藤沢宿と旧モーガン邸ツアー

支部長・事務局

支部長 : 津田 孝之

事務局 : 〒253-0082 茅ヶ崎市香川4-28-7(有)秀建 内

TEL 0467-57-7526 FAX 0467-87-6020

Eメール shonan@kanagawa-kentikusikai.com

スクランブル調査隊

時を経た歴史的建造物は、受け継がれてきた伝統技術を伝承し、その地域の景観に多大なる影響を与えている事は周知のとおりです。

これらの建物も世代が交代し相続が絡むと解体という危機にさらされています。又、保養所・寮といった建物は企業が維持できずに放出、景観を大きく変えてしまいました。このまま放っておいてはいけない、という危機感をいだいた人々の波は日本全国で渦巻くように高まっています。

スクランブル調査隊は平成10年に立ち上がりました。解体される前に記録に残しておこうと、17名で邸宅調査をしたことがきっかけでした。

それ以降県内を中心に各地に残る歴史的建造物を訪ね歩き、所有者の理解が得られた場合は実測調査を行っています。

近年は県内外で活動する団体と交流し、情報を交換しながら協同で活動を始めました。目指すは全国の建築士と手を繋ぎ協力体制を作ることです。

これまでに行った活動の一端をご覧ください。



スクランブル調査隊が立ち上がるきっかけとなった建物
(鎌倉市佐助)



企業の保養所が解体されることになり調査を開始
(逗子市)



「旧三崎町役場」はすでに解体され消滅
(三浦市城山町)



「旧三井守之助別邸」解体されてしまったが、大勢のボランティアによって部材保存されている
(大磯町大磯)



明治初期の擬洋風建築の傑作
「松城家住宅」(西伊豆戸田村)



結核療養所「南湖院」が茅ヶ崎近代史に占める位置は大きい
(茅ヶ崎市南湖)



浦賀港と「浦賀ドッグ」江戸時代の浦賀港は江戸へ出入りする船の関所であり、ペリー来航時最初の交渉はこの地で行われた
(横須賀市浦賀)



国重要文化財「関家住宅」江戸時代前期の貴重な建物であり、保存修理現場研修
(横浜市都筑区)



小田原市板橋地区にはたくさんの歴史的建築物が残存
(小田原市板橋)



「中西葉山寮」葉山で活動する団体の拠点となっている昭和初期の建物
(葉山町一色)



日本画家「旧川合玉堂別邸」は茅葺き
(横浜市金沢区富岡東)



陶芸家が展示室として活用
(小田原市国府津)



残念ながら看板建築の解体が始まってしまった
(小田原市国府津)



桜満開の「旧横須賀鎮守府司令官官舎」
(横須賀市田戸台)



「旧安田楠雄邸」
日本ナショナルトラストに寄贈され、復元・修理工事途中
(東京都文京区)



国重要文化財「鶴岡八幡宮回廊」の研修
(鎌倉市雪ノ下)



「日本女子大学成瀬記念講堂」
文京たてももの応援団と交流し音羽界限を散策
(東京都文京区)



「旧住友家侯野別邸」
広大な敷地であり建物の様子が分からなかったが、ようやく見学が実現
(横浜市戸塚区)



「グリーンハウス」
保存再生のために大勢の人達が動き始めた
(藤沢市善行)



「旧小坂村玉縄村組合村役場」
修理の手が入らずあまりにも老朽化
(鎌倉市台)



「旧日向別邸」世にも不思議な地下空間の設計はブルーノ・タウト
(熱海市春日町)



「起雲閣」豪華なサンルーム
(熱海市昭和町)



「馬場氏熱海別邸」
設計は吉田鉄郎。東京中央郵便局を思い浮かべる方が多いと思います。
(熱海市上宿町)



東京湾のロストワールド「猿島」
明治以降は要塞。近年の埋蔵文化財発掘調査によって、縄文・弥生時代の遺構を検出
(横須賀市猿島)



ひときわ異彩を放つ看板建築
(横須賀市上町)



鞆の浦「東の家」200年積もった埃対策はヤッケとマスク
(広島県福山市鞆町)

スクランブル調査隊は建築士会会員全ての方が隊員です。情報は会報・ホームページなどでも発信しますが、緊急になりがちですので、ML(メーリングリスト)への登録をお勧めします。

さあ！次はどこへ行こうかな。

福祉部会

大西正行

現在、高齢者社会の世の中となっています。高齢者ばかりでなく障害者の方も大勢います。徐々にではありますが、バリアフリーのまちづくりをめざして社会は動き出しました。そのため、高齢者・障害者が出歩くことが可能になり、私たち自身にも高齢者社会を身近に感じられるようになりました。



車椅子体験研修風景

『まち』という大きな器の中で建築物自体もバリアフリーの観点からは非常に多くの問題を含んでいます。我々建築士が建物と関わる時、その姿勢や勉強が問われます。

高齢者の方と、障害者の方と家族と一緒に地域に根ざして住んでいる人々がいます。しかし、『家』、『まち』には物理的に障害が多く存在しているのも現実です。高齢者・障害者の方が不自由なく出歩けるまち、そしてそこで住む障害の無い家が必要です。

福祉部会では各地域に社協等と協力し地域相談として相談員を推薦しており、県ともしびセンターにおいてもまた相談員を推薦しています。相談は高齢者・障害者を含めてその家に住む人がいかにそこで住みやすくなれるかといった住宅の改造相談です。また『楽しく暮らせる住まい』部会という副命題を合わせ持ち、部会員同士の自主的勉強会を催し、リハセンター等より講師を招いての研修会を開いたりして切磋琢磨しています。

What 情報広報委員会？

情報広報委員会は、各支部及び各委員会代表、公募の会員計21名で構成されています。

当委員会の主な活動としては

①ホームページの企画、管理、運営

ホームページの企画・運営を行っています。今年度はデザイン・構成を一新しました。下記参照。

②機関誌「SALON」の企画・編集・発行

会員の方々への情報誌「SALON」を年2回発行しています。

③会員相互のネットワーク、情報の活用

1) 本会と各支部の情報網の整備

各支部、各委員ごとのホームページ及びメーリングリスト等の整備

2) 各支部、各委員会で行っている様々な事業や活動の会員への情報提供。ホームページやメーリングリストを使って情報提供

個々の会員が持っている情報やノウハウを会員相互で活用するための情報バンク制度の検討

3) 情報バンク制度の検討

個々の会員が持っている情報やノウハウを会員相互で活用するための情報バンク制度の検討

④その他情報に関すること

1) 地域社会に対する建築士会のアピール

建築士会・建築士の活動を地域社会に対してアピールしていきます。

2) 建築士会の会員増強について

情報に関する様々な研修や情報を交換することによって、士会の活性化や新しい建築士層の掘り起こしや若い建築士の建築士会への入会を図って行きます。

3) 情報に関する懸案事項の検討

今後、ますます推進していく情報化社会に対応し、その受け皿として各委員会・各支部を横断的に組織し、情報を切り口とした活動を推進していきます。

「SALON」編集風景



建築士会ホームページリニューアルオープン

建築士会ホームページがリニューアルオープンしました。デザインも一新し、コンテンツも

①一般向け情報

一般の方々へ建築士会の紹介や役に立つ情報

②目指そう！建築士

建築士を目指す方へ講習会や講演会等の情報

③会員専科

建築士会会員向けに支部活動や委員会情報

の3つに分け、建築士会で発信している様々な情報をわかりやすく整理しました。

是非アクセスしてみてください。

URL <http://www.kanagawa-kentikusikai.com/>



多様な地域貢献活動が着実に花開くかながわ

地域貢献活動特別委員会

委員長 長瀬 光市

平成15年度に「かながわ地域貢献活動センター」が設立されて以来、延べ14活動団体に助成を行ってきた。一言で「まちづくり」とは言っても様々な顔を持つ多様な活動が浮かび上がっている。例えば「モーガン邸を守る会」「よこはま洋館付き住宅を考える会」「住まいとまちづくりの会」等の歴史的建造物の保存・修復を目的とした活動。「国府津の活性化を計る会」「鶴沼の緑と景観を守る会」「葉山環境文化デザイン集団」等の歴史的街並みや環境を保全に係わる活動。「NPO ときめき箱根」等の地域文化継承や自然環境再生に取り組む活動。「NPO 横浜ひと・まち・暮らし研究会」等の地域が持つ多様な資産を次世代に継承していく活動や「NPO かわさき住環境ネット」のように、高齢化社会に対応した福祉住宅、安全安心のしまいづくりに対応する技術者を育成する活動など、様々な領域で活動が行われている。

このようなまちづくりの発想のキーワードは、地域の歴史、文化、自然、環境等に育まれてきた地域環境構造によるところが大きい。また、地域貢献活動に係わってきた人たちに共通する思いは、「いかにして地域住民の発意を活かしまちづくりに繋げていくことができるか」「建築士として自らの職能を活かして、住むひとと共に地域をつくるか」が貢献活動の旗印となっている。

まちづくりには必ず『仕掛け人』が存在し、楽しみながら活動を展開し、その活動のプロセスから専門家が誕生し、組織づくりは力まずに先導し、緩やかな関係をつくり参加する一人一人のポジショニング、つまり自らの居場所を発見させる極意を身につけている。いわゆる「男型社会の構図」でわかない「参画型社会の構図」となっている。

昨年末に、マンション・ホテル等の構造偽装問題が社会を大きく揺るがし、一握りの人たちの倫理感の欠如が、建築士全体の倫理、技術、職能意識が問われる社会問題となっている。何よりの重要なことは建築士資格者の説明責任と建築確認制度が市民から信頼を失ったことにある。そして、建築士会連合会と都道府県建築士会が15年の歳月をかけて手取り組んできた地域貢献活動そのものの存在価値が今、問われようとしている。

私達は今こそ、失われつつある社会からの信頼をもう一度取り戻し、安全・安心の地域社会を構築するために、技術者として連合会、建築士会の総力をあげて、CPD・専攻建築士制度を社会的制度として定着を図り、かつ、職能者として地域の資源、文化、歴史を活かした「ものづくり」「まちづくり」「くらしづくり」に市民、NPO、行政と連携した地域貢献活動を活発に展開していく必要がある。

架空の議論では無く、汗を流し、脚で一步一步確かめながら地域貢献活動を展開して行くことは、地域への愛着と建築士としての職能意識があって初めて可能になる。

ご存じですか？ 建築士の

C P D 制 度 と

「CPD制度」は真面目に努力する建築士の証

21世紀を迎え、建築の技術もかつてないくらい目まぐるしい速度で変革しています。
新しい素材や工法、時代を反映して進化を続ける建築関連法令。
私たち建築士はライセンスを取得した後も、その後の新しい技術や
時代の情勢に対応していく必要があります。
そのため、多くの建築士は講習会や見学会等の各種研修を通してより深遠な
知識や情報を会得すべく自己研鑽に励んでおります。



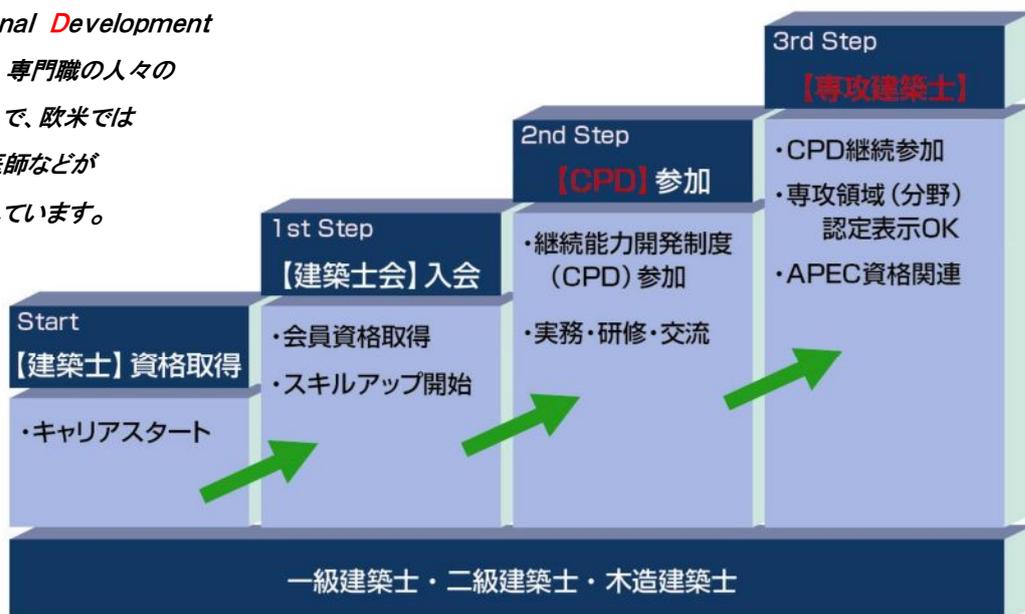
この活動を客観的に評価する制度として日本建築士会連合会が提唱し、神奈川県建築士会においても2003年11月よりCPD制度を発足させました。

神奈川県建築士会を始め、全国47都道府県の建築士会では会員である建築士の皆様にこのCPD制度への参加を推進しています。

実務(お仕事)と各種研修に所定の単位を付与し、年間50単位程度を取得し、更に専攻建築士を見据えて5年間で250単位取得を目標として日々努力しております。
現在、神奈川県建築士会会員のうち約600人の方がCPD制度に参加しております。

Continuing Professional Development

＝継続能力開発制度とは、専門職の人々の為に考案されたプログラムで、欧米では幅広い職種に、日本でも医師などがこの制度を以前から展開しています。



ふたつの新しい制度

専 攻 建 築 士 制 度

「専攻建築士」は仕事のできる専門家(プロ)の証

お医者さんにも内科・外科・歯科・眼科、コックさんにも和食・中華・フレンチ・イタリアンと得意な分野、専門にしている分野があります。

私たち建築士もその実務経験から一人一人専門分野を持っています。
それを社会に「プロの証し」として示していく制度、それが「専攻建築士制度」です。
神奈川県建築士会をはじめ、全国47都道府県の建築士会では
会員である建築士の皆様に専攻建築士制度への参加を推進しています。

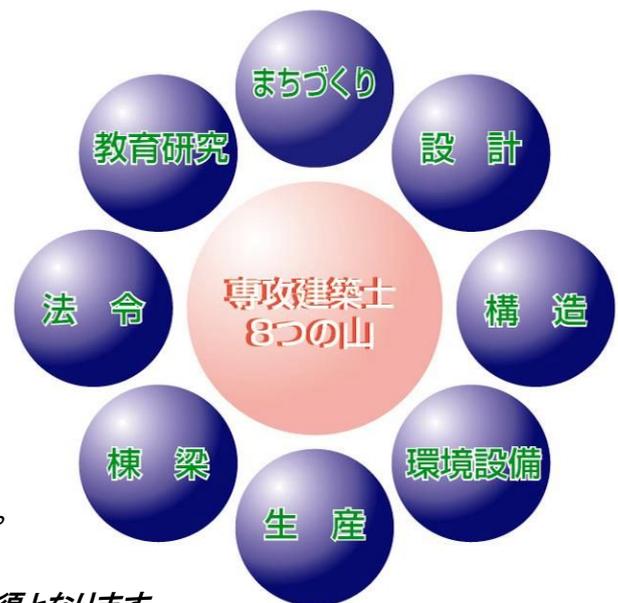
現在、建築士免許を所有している皆様の仕事内容を下の図のように8種類に概ね分類します。
その中で一人一人、これまでのお仕事の実績から専門的に携わっている分野
を自ら申告していただき、各都道府県の建築士会、
日本建築士会連合会での審査を経て
専攻建築士＝その道のエキスパートとして
認定されます。

専攻建築士制度は建築士のライセンスと異なり、
一度取得すれば「一生もの」というわけではありません。
取得してから5年ごとの登録更新が必要になります。

その更新の要件としてもう一つの制度である
「CPD(継続能力開発)制度」への参加、単位取得
(更新時である5年後までに250単位の取得)があります。

従って、専攻建築士の登録にはCPD制度への参加が必須となります。
専攻建築士制度はCPD制度と切っても切れない関係であり、
この2つの制度はいわばクルマの両輪の役割を成しているのです。

神奈川県建築士会では2005年4月から5月にかけてはじめての申請を受け付けし、
200名の専攻建築士が登録されました。
あなたのお住まいを設計された建築士も、登録されているかも知れません。



CPD制度・専攻建築士制度のさらに詳しい情報はホームページへレッツアクセス!

CPD制度委員会・専攻建築士制度委員会は、このふたつの新しい制度の推進・運営をしています。



支部長挨拶

皆様こんにちは、日頃より横須賀支部に対しますご支援、ご協力に感謝申し上げます。ご存知の事と思いますが当支部は三浦半島の三市一町(横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町)の

会員で構成されており現在の会員数は約260名ほどです。

創立は昭和27年であり平成17年度現在、創立53年目を迎えております。

昭和50年～60年代をピークに年々会員数は減少の一途を辿っている現状です。

支部独自事業以外は本部委員会及び各支部との連携、協力により活動をおこなっております。

支部会員の方々につきましては今後、支部通信の代わりに

このホームページを活用して情報の確認とご意見、ご感想などをお寄せ頂けたら幸いです。

今後、このホームページを充実させ、皆様にご利用されやすい様、努力して参りますので今後共宜しくお願い申し上げます。

神奈川県建築士会横須賀支部長 加藤 隆夫



海・・・。山・・・。里山・・・。丘・・・。林・・・。森・・・。そして富士山！！

文化・・・。歴史・・・。伝統・・・。そして古建築。

相模湾の大漁、足柄平野の太陽の恵み。そうそう、うまいものいっぱい。

天下の、日本の、世界の観光地。雪の露天風呂、心と体を癒します。

この世のいいものが全部あるのが、小田原地方支部です。小田原市・南足柄市・箱根町・真鶴町・湯河原町・松田町・中井町・開成町・山北町・大井町の二市八町をまとめさせていただきます。

以前、伝統技術の調査等の一環として、100寺社を選定し、一冊の本にまとめるという支部活動を行いました。

また現在、建築士の地域貢献活動として、悪質リフォーム相談に関する相談業務を執り行っております。西さがみ連邦共和国消費生活センターを中心に、様々な相談事の中から建築に関する内容の受け入れを行っています。特に、高齢者に被害が多く見受けられるので、民生委員・児童委員協議会理事会等に出向いて、啓発的な話をさせていただき、一種の出前講座のようなものです。

おりしも建築テロ的な事件が発生してしまい、「建築士」という言葉が良くも悪くも揺らいでいます。

私たちは、今後も真摯な気持ちで建築士の職務を全うし、また地域貢献に少しでも役に立つことを願いまい進してまいります。

(社)神奈川県建築士会 小田原地方支部
芝 京子

川崎支部

支部の事業について

～これからの建築士会の交流とは～

金子成司

数年前より川崎支部では、事業を行う上で無駄を無くし効率良く行うために、設計3団体(建築士会・事務所協会・設計協同組合)による共同事業を行ってきています。

昨年は、会員の知人の計らいで川崎市中原区に新設されました。**サントリー研究所見学会**を行いました。研究所では稼働前のため、一般の方は入れない貴重な区域まで見学させていただきました。今まで、市内を中心に歴史的な古民家が数多く移築されている日本民家園、ミュージアム川崎、丸ビル建設現場など数多くの見学会をいたしました。

今年度も、川崎市というエリアと行政単位を意識した見学会・法令講習会は、設計3団体で共同開催し費用の軽減を図るなどの効率の良い運営を心がけています。また、これは多くの関係者が一同に会し、それぞれの会が相互乗り入れすることにより、建築士会を中心としたCPDと他の会に於けるCPDとの連携にも寄与すると共に会員増強にも繋がることだとも思っております。

また今後は、神奈川県建築士会と各支部がより密接な関係を保ち、事業に於いてもそれぞれの立場を明確にする中で共同できる事業を展開できればいいと考えています。神奈川県建築士会の会員向けの事業を川崎で開催する場合には、支部あるいは委員会共催として川崎支部からも案内を発信できるようにしたいと考えております。川崎の建築物を皆さんに見学していただきたい場合も、神奈川県建築士会本会より情報を発信していただいて川崎支部としても共催又は後援して、一人でも多くの会員に参加していただく様努力していかねばならないと思います。

川崎市と横浜市のエリア限定の事業であれば川崎支部と横浜支部での共催とするなどの工夫も今後必要ではないかと考えております。(現在、横浜支部と川崎支部は囲碁交流戦が開催されているのみです。)

川崎支部では、経費削減で効率よく、会員相互の連携を深め、更には会員増強を目指すために、他会との交流、神奈川県建築士会と支部との交流、支部間の交流を今後更に積極的に進め工夫していくつもりです。これからの建築士会のためにも。



サントリー研究所

県北支部活動報告

支部長 石井 明

神奈川県北部、丹沢・大山の麓に位置する相模原市と津久井郡で、昭和40年7月26日、県北支部は発足されました。

現在は相模原市、津久井町、城山町、相模湖町、藤野町の1市4町で構成されており、時間の経過と共に発足当時よりも規模を大きくしながら今日に至っております。昨年度は、県北支部創立40周年という節目の年を迎え、県北支部の在り方や今後の更なる発展など多くの事を考えさせられる年でもありました。それに伴い、ホームページを作成しました（アドレス <http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/kenhoku/>）。建築士会本部のホームページにもリンクしてありますので、気軽にご覧頂ければ幸いです。また、同時期に役員改選があり、前支部長 塩谷 茂氏の後任に私、石井 明、副支部長に曾根 勝、山上 幸司、会計に遠藤 正治、事務局に有泉 ひとみ、というメンバーで魅力ある県北支部にしていきたいと考えておりますので今後とも、皆様方のご協力をお願いします。

現在主に行っている活動としましては、近年の度重なる建物の地震被害を目の当たりにして、相模原市では、昨年7月より新たに木造住宅耐震改修工事等補助制度を実施しました。支部内部に耐震技術者委員会を発足させ、木造住宅の耐震診断及び改修計画の作成、更には改修工事までもを行い、多くの市民の方々の住宅に関する不安を少しでも取り除く事が出来たのではないかと思います。

今後も県北支部では、有資格者の会員増強を図ると共に、会員同士のコミュニケーションを大切に、一致団結して活動していきたいと考えております。

どうぞ、本年も宜しくお願い致します。

横浜支部活動報告
支部長 南 利幸



研鑽の場

総務委員会

6月24日 支部総会・講演会

親睦の場
懇親会

○東京ガス中原ビル見学会 3月15日
新時代のビルリニューアル実例見学会



○関東学院ラグビー部監督講演会
講演者：春口 廣 氏



1階「ランチャンアベニュー」にて
○懇親会でのスナック



技術委員会

8月22日 ゆかり文化幼稚園
の見学会

12月22日 パイプ・オルガンを聴く
タベ

「木造2階建住宅建築の構造計算」
勉強会は4月から7月まで、毎月
1回開催し、4回連続受講の構成



丹下健三氏により設計され、1967年に竣工した隠れた名作、ゆかり文化幼稚園です。当園は終戦後の昭和22年に設立された歴史のある幼稚園で、起伏に満ちた敷地を優雅にそしてダイナミックに、PCシェルが覆う建築です。建築と敷地の関係から迷路の様な立体的な空間が特徴です。



厚生委員会+4つの同好会

○7月22日(金)
夏の親睦会を麒麟横浜ビアビレッジ・バーベキューガーデンにて行う

○10月26日<日帰りバス旅行>
レトロ建築ウォッチングと和の料理の鉄人道場六三郎の『ポアソン・六三郎』でランチを味わう
旧岩崎邸(旧三井財閥邸宅)と「音羽御殿」の異名を持つ政治家一家・鳩山家旧邸の鳩山会館をウォッチングする

■テニス同好会
◎発足100回記念を2月18日(土)夕方から横浜プリンスホテルにて行います。
○秋のテニス合宿 (参加者合計12名)
9月3・4日場所:小室山公園コート
エクシヴ伊豆コート

■絵画同好会
○第10回 スケッチ会 6月4日
「開高 健記念館」・「茅ヶ崎美術館」と湘南海岸でスケッチ会



■ワイン同好会 11月11日



○第10回 デッサン会 11月26日
かながわ労働プラザにて

■ゴルフ同好会第10回コンペ
11月16日



○逗子マリーナ冬のテニス合宿
(参加者17名)
12月10・11日 場所:逗子マリーナ

